

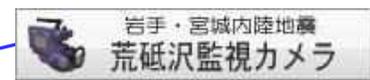
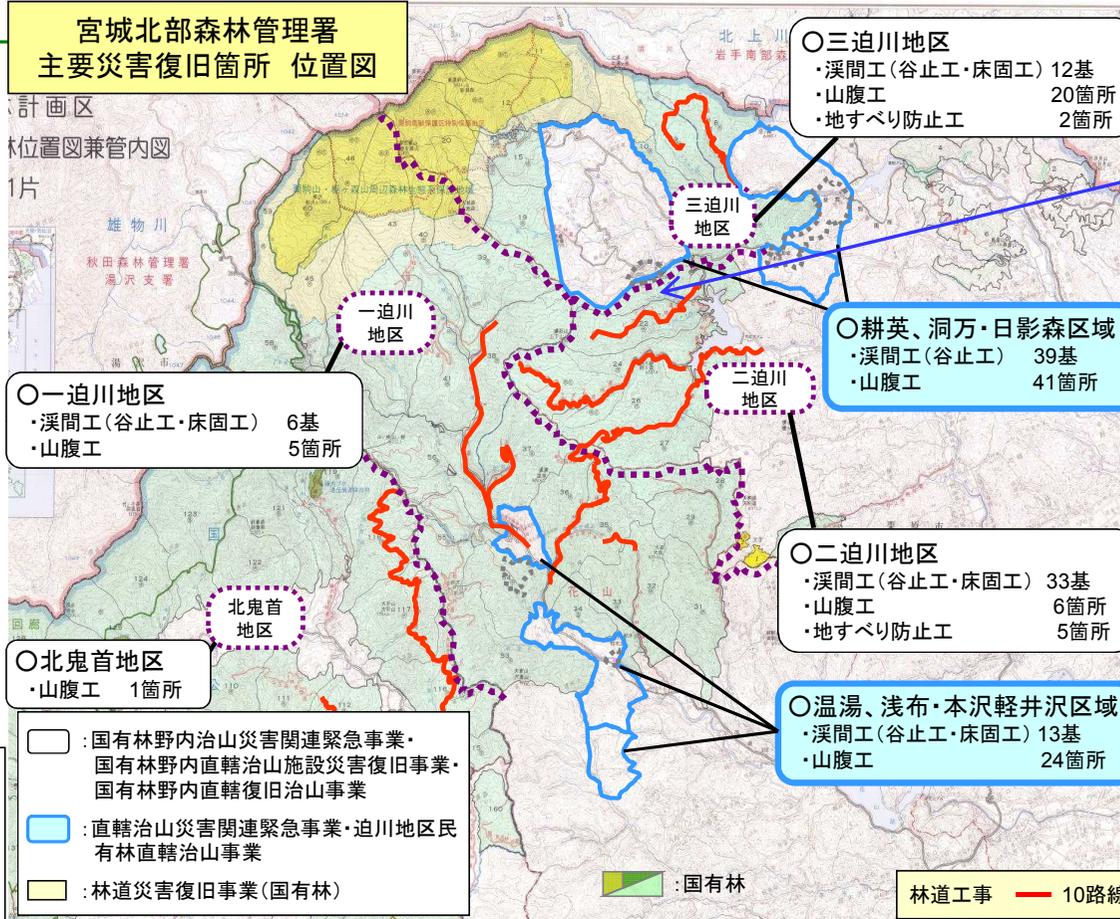
概要

被災箇所に係る復旧整備状況

- 平成26年度まで
  - 国有林治山事業：溪間工51基、山腹工32箇所、地すべり防止工7箇所
  - 民有林直轄治山事業：溪間工52基、山腹工65箇所
  - 林道災害復旧事業：10路線
- 平成27年度計画
  - 国有林治山事業：溪間工1基、山腹工1箇所
  - 民有林直轄治山事業：溪間工8基、山腹工4箇所



平成20年 岩手・宮城内陸地震の記録  
 発生日時 2008年6月14日 午前8時43分頃  
 地震の規模 M7.2  
 最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)  
 震源地 岩手県内陸南部  
 震源の深さ 約8km  
 山腹崩壊箇所 1,062箇所(宮城県内、H20東北森林管理局調べ)



荒砥沢地すべりに監視カメラを設置しています。東北森林管理局ホームページのトップページ左にある「岩手・宮城内陸地震荒砥沢監視カメラ」のパナーをクリックすると見ることができます。  
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/index.html>



平成28年1月31日撮影

**被災地の復旧状況 (植生マット試験施工の事例)**  
**施工箇所：荒砥沢地区**

本施工地は栗原市栗駒字深山岳国有林地内に位置しています。岩手・宮城内陸地震により二迫川の支流で大規模な地すべりが発生し、下流の荒砥沢ダムに土砂が流入する被害を与え、現在も荒砥沢地区内に不安定土砂が堆積しています。地すべり土塊の再移動防止や荒廃の拡大と土砂の流出を防止するため、被災直後から対策工を実施しています。現在は、大雨等に伴う荒廃地の拡大崩壊及び表面侵食を防止するため、山腹斜面の保護を主体に対策工を実施しています。以下、荒砥沢地区における植生マット試験施工(盛土箇所)の状況をご紹介します。

<p><b>施工前</b></p> <p>平成26年6月撮影</p> <p>現地は、荒砥沢地区内の盛土施工箇所、土質は非常に侵食されやすく、降雨等に伴う表面水等により侵食が進行しています。</p>	<p><b>施工の状況</b></p> <p>平成26年7月撮影</p> <p>緩い勾配で整地すると共に、丸太柵工を実施し、斜面を安定させた後、表面侵食防止のため植生マット伏工を実施しました。</p>	<p><b>施工後</b></p> <p>平成26年7月撮影</p> <p>4社製品による植生マットの施工完了状況です。表面侵食していた斜面が植生マットにより保護され、施工の効果が期待できます。</p>	<p><b>施工後一年経過</b></p> <p>平成27年7月撮影</p> <p>施工から一年経過後の植生状況です。植生が旺盛であり降雨等による表面侵食がなく、施工効果が発揮されている様子が見て取れます。</p>
--	--	---	---

**1** 耕英岩魚沢 (H27) 治山工事  
 [コンクリート谷止工] ほか  
 コンクリート打設、木製型枠の設置を行っています。



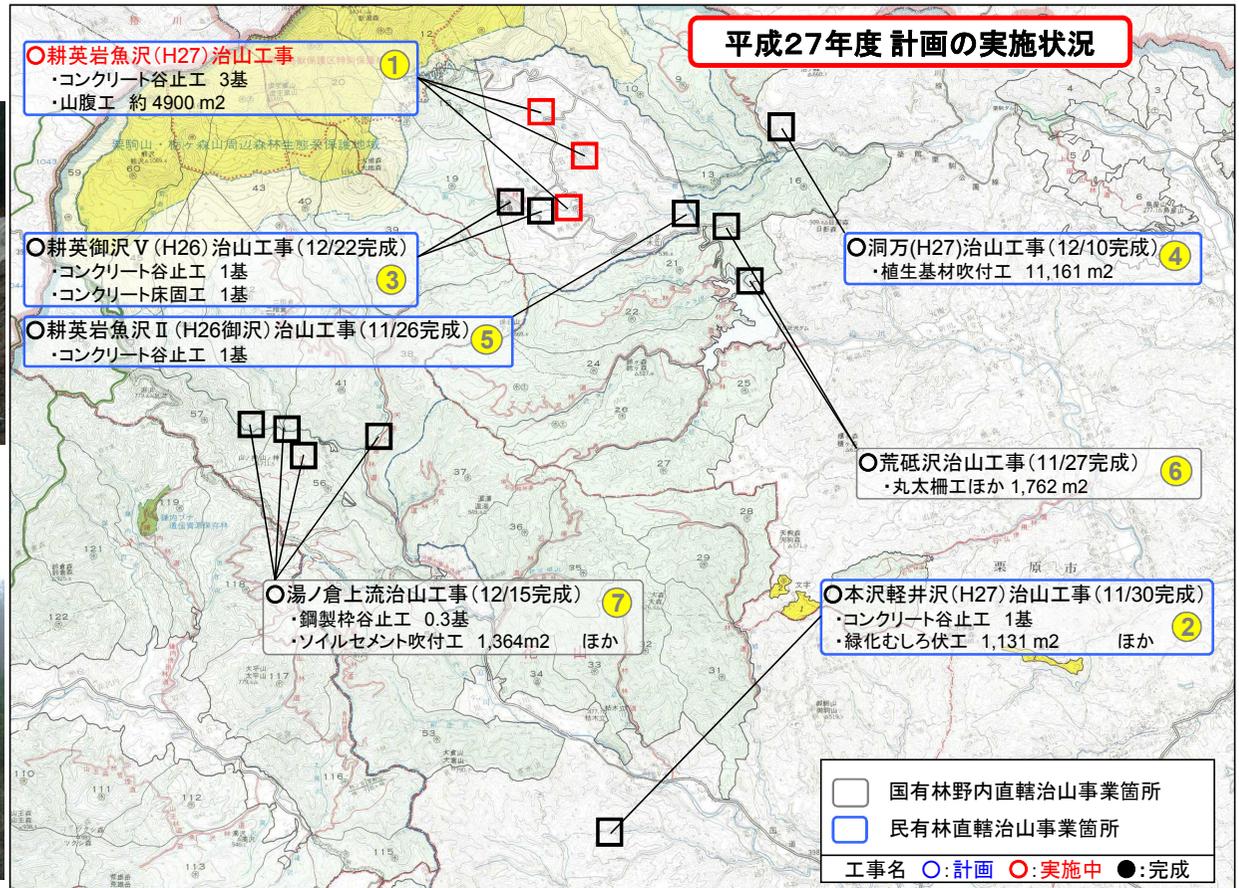
**2** 本沢軽井沢 (H27) 治山工事  
 [コンクリート谷止工] ほか  
 11月30日完成しました。



**3** 耕英御沢 V (H26) 治山工事  
 [コンクリート床固工] ほか  
 12月22日完成しました。



**4** 洞万 (H27) 治山工事  
 [植生基材吹付工]  
 12月10日完成しました。



**5** 耕英岩魚沢 II (H26御沢) 治山工事 [コンクリート谷止工]  
 11月26日完成しました。



**6** 荒砥沢 治山工事 [丸太柵工] ほか  
 11月27日完成しました。



**7** 湯ノ倉上流 治山工事 [鋼製枠谷止工] ほか  
 12月15日 0.3基 (0.6基) 完成しました。

